

事業報告書 (平成 29 年度)

事業名 発達障害を含まないカラフルな個性をもつ子どもたち、大人たちへのより良い理解を促進し、
一般社会との架け橋を作っていく

団体名 カラフルキッズの会「nijiyone〜ニジノキ」 担当者名 田中 朋子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)
①「にじのね」座談会 11回 第4回 曜日
②大人カラフルキッズの会「カラース」 月1回 第2回 曜日
③くるひとからていへるかまい(にじのね練習会) 不定期月
④たのしいあひかく〜子どもたちのためのコンサート 平成29年6月
⑤SST、社会体験の場 てくてく 月1回 第2回 曜日 (平成29年11月まで)
⑥SNS等と利用しての相談の場、小情報提供、発信を行った
(別紙あり)
2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ
毎回参加者にアンケートをとり、今困っていることや不安、今後ほどのような活動をしてほしいか? などとリサーチし、次の企画に生かせるようにした。 また、参加者だけでなく、企画者側も子育て世代のため、無理なく活動が継続できる本業に、活動内容や歩度を再検討した。 会の名刺や印刷物もLD対応ができていただけるとの声を参考にシンプルに よりわかりやすいものに変更した。
3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)
会の中で利用できる支援やそのつながりまでの手順、事業所情報等共有することで実際に 知りたかった支援に糸をいけることができた事例が多々あった。(田中-時、相談支援等)。 また、気軽な気持ちで悩みを聞いてもらえる、吐き出せる場所があり、言せなくても参加する ことでリフレッシュできた、心が軽くなった、特性を少し違う、目線で見られるように なったという声も多々あった。 大人の座談会「カラース」ではお互いの特性や工夫してきたこと、感じてきたことを共有する ことで、自分の経験が腑に落ちることがあったり、新たなヒントを得たりすることができた。 SNS等での小情報交換や相談も活発であった。

4. 今後の課題と展望

今後はひかりんく~~等~~等ともつながりを持ち、未診断でも困っている人たちが"相言談
できたり、その先の支援の見通し情報提供ができる「支援の入り口」の場として会を育て
行きたい。また各事業所の詳しい事業内容一覧や、発達に特性のある子どもたちに
理解のあるお店情報等の共有、受診相談～支援の利用までの流れの整理など
をして、何かしらの方法で発信していくことで、会に参加しにくい人々へも情報が
行きわたるやすいシステムを検討していきたい。

また、子どもたちを支える大人の側も、自分を理解し、自分を理解することで
子どもたちのことも客観的に、少し余裕をもって見ることもできる様、「自己理
解」や「自己表現」のワークショップや体験も深めていきたい。